

## (熊本農業高等) 学校 令和7年度(2025年度) 学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>	
1 校訓『敬天愛人』と『熊本の心』を基本理念に、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、社会と共に進化し続ける人材の育成と活気に溢れた学校づくりを目指す。	
(1) 校訓 『敬天愛人』	
(2) 綱領四条目 「慎思力行」「剛健進取」「儉素礼讓」「自制協同」	
(3) 建学の精神 「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」	
【教育スローガン】	
農業の魅力を探究し 持続可能な社会を創造する	

<b>2 本年度の重点目標</b>	
“認め ほめ 励まし 伸ばす” 教育行動指標を踏まえた教育の実現	
＜人権尊重の精神に立った学校づくり＞	
○確かな学力の育成と個に応じた指導の充実	
○キャリア教育の推進と個性を活かす進路指導の充実	
○道徳教育の充実と命を大切にする心の育成	
○指導方法等の工夫・改善（生徒にしっかりと寄り添い、一人一人を大切にす教育）	
○一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の徹底と切れ目ない支援体制の構築	
○いじめの未然防止と対応の充実	
○学校の安全教育及び安全管理の充実	
○家庭教育の充実と地域・学校協働活動の推進	

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安全・安心な学校運営と生徒の学校生活の充実	生徒が安全・安心に学べる環境をつくり、生徒が目標を持って学校生活を送ることができている。	学校評価アンケートにおいて安全・安心に過ごすことができている。生徒が目標を持って学校生活を送ることについての回答割合を90%以上とする。	・生徒支援体制の更なる充実及び危機管理の徹底 ・授業や課題研究、特別活動を充実させ、生徒の興味・関心を高める。	B	・学校評価アンケートにおいて「学校行事に安全・安心に参加」「目標を持って学校生活を送る」の項目で高い評価を得ている。 ・危機管理マニュアルの整備や研修を実施し、緊急時対応の意識を高めた。 ・生徒が安全・安心に学べる教職員の対応力及び組織力向上と情報共有の仕組みを改善する。

	特色ある教育の充実と魅力の発信	学校の特色ある教育を発信することで意欲的な生徒の入学を促し、各学科の入学志願者を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期選抜(2.88)、後期選抜(1.60)の倍率を昨年度程度に維持する。</li> <li>・体験入学や開放講座、KSHなど中学生に向けた取組を充実させる。また、HPやすぐーの活用、メディアによる発信を行い、本校の魅力を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験入学や開放講座への中学生の参加を促し、受験生の本校教育についての理解を図る。</li> <li>・日頃の授業を大切にし、課題研究やKSHの取組など特色ある教育の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期選抜においては、昨年より倍率は低下したが、例年並みの倍率を維持できている。これは継続した学校の魅力発信や広報活動が一定の効果を出している。</li> <li>・体験入学や開放講座、KSHなどの企画を実施し、参加促進に努めた。併せてHPやすぐー、メディア発信を活用し、学校の特色を広く周知できた。</li> <li>・課題研究やKSHなど、学校独自の教育活動を充実させ、授業改善にも取り組んだ。</li> </ul>
	業務改善と働き方改革	業務内容の精選と見直しを行い、長時間勤務を是正する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度改革案を実施することで業務の効率化及び平準化に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績処理の時間捻出や「ハリフレッシュ日課」を取り入れ、メリハリのある勤務を推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の改革案を実施し、メリハリのある勤務を推進した。</li> <li>・教職員の働き方改革に向けた意識改革を促進した。</li> <li>・業務の平準化では学校評価アンケートでは改善できているが、職員の負担が偏らないような配置を検討し、各部・各科においても改善を行う。</li> </ul>
		全職員の働き方への意識改革と働きやすい職場環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間勤務が慢性化している職員の勤務状況を改善する。</li> <li>・個人の年間年休取得10日以上を目標とし、時差出勤等を行う。また、時差出勤等を推進し、長時間外勤務を前年度比で全職員平均10%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な学校運営のために、校務分掌や部活動など長時間勤務の要因となっている状況を短期的・長期的に計画・実施をすることで改善する。</li> <li>・職員間で働き方への改革へ意識高揚を図り、風通しのよい職場環境をつくる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務は全体的に昨年比で約9%減少(12月時点)している。ただ、依然として80時間を超える職員が数名存在した。個人の年休取得に関しては、平均10日以上と取得率は増加傾向であるが、偏りがある。</li> <li>・原因を検証し、改善に向けた取組を行っている。</li> </ul>
学力向上		指導と評価の一体化を図る。	生徒が意欲的に授業に取り組む工夫。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科でICTの活用や評価の観点を明記したシラバスを作成し、生徒が見通しを持って学習できる環境を整備する。</li> <li>・観点別評価</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用は校務DX推進部主導のもと、着実に浸透している。シラバスの内容の充実について、取り組むことができている。</li> <li>・観点別評価を実施するうえで、旧</li> </ul>

				を生徒の今後の学習取組に繋げる材料とする。 ・定期考査のみに頼らない学習評価や形成的評価の研究をする。 ・観点別評価3年目を終了したが、課題点や普段感じていることを教科会や他教科の先生方と協議（相談・座談）を交える等、様々な視点を経た振り返りに取り組む。		課程と比較して中長期的に生徒の学習計画を構想する必要があることがわかった。その変化に着実に対応が可能となってきたが、まだ十分ではないと感じる。生徒の意欲を引き出す上で、今後も継続して取り組んでいくべき課題である。
		授業改善を実施する。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	・公開授業や研究授業週間を設定する。 ・生徒による授業評価アンケートを年2回実施する。	A	・年間の計画通りに方策を実施し、授業実施者に客観的な視点を取り入れる機会となった。
キャリア教育 (進路指導)	計画的・系統的進路指導	進路実現のための必要な基礎学力が身につけている。	基礎学力診断テスト等での成績を向上させる。 小論文や面接での表現力を身につける。	各試験の結果を振り返って分析し、次回の目標の実現に努力する。 キャリアパスポートの活用。 様々な機会を活かし表現方法を身につける。	B	・各学期始めの「基礎力診断」の結果やキャリアパスポートは、進路選択に活用できている。生徒各自の学力向上の意欲につなげることが今後の課題である。 ・進路関係の講話や外部イベントの参加を通じ、自身について考え、面接等の機会に生かすことができた。
		専門学科の学びを進路に活かしている。	専門学科の学びを進路に活かせる進路を選ぶことができる。	専門の学びを表現できる力や技術を身につける。	B	・多くの生徒が進路を選ぶ際、また、面接や小論文などに専門学科での学びをアウトプットしていくことができた。
	キャリア教育の充実	自分の適性を理解している。	得意・不得意を理解し、どの分野が自分に適しているかがわかる。	自分に適した進路先を自ら選ぶことができる。	B	・担任やキャリアサポーターとの面談は、生徒が自分の適性を考える機会にできた。 ・大学進学で農業以外の経済学部などを進路に選択する生徒が増えており、その指導に苦勞することも増えている。
		コミュニケーション能力を向上	自分の考えを相手にわかり	学校生活のなかで自分の意	B	・専門学科の課題研究や多くの共同

		させる。	やすく、表現し伝えることができる。	見を言う機会を自ら求め、挑戦する。		作業などを通してつけたコミュニケーション能力が就職や進学の際に大いに役立っている。
生徒指導	ルールを守る生徒の育成	ルールやマナーを守り安全・安心で充実した生活を過ごしている。	・学校評価アンケートにて、校則の遵守の割合を95%以上とする。	・全体への周知と確認を心がけ、生徒と職員の相違を無くし指導にあたる。 個別指導を実施していく。	B	・具体的目標値に満たない結果であったが、3学期に向けて自覚ある行動も見られるようになった。 ・整容面でも個別の指導をすることで生徒自身が理解し行動する基礎ができつつある。
			・特別な指導を含め同様の内容での指導を繰り返さない。	・本人の課題を明確にし、学校と家庭（保護者）双方が連携、協働し生徒支援にあたる。	B	・一部の生徒で繰り返しの指導があったが大半の指導においては、同様の指導を受けることはなかった。 ・件数的に多く指導することになったことは反省としてあげられる。
			・登下校中の交通事故・違反件数を全校生徒の5%（41件）以内とする。	・道交法も含め交通情報等を保護者と共有する活動（広報）を実施する。 ・定期の登校指導の実施をはじめ、登下校時の状況の把握対応を速やかに行う。	B	・事故件数は10件であった。具体的目標としては、達成している。 ・次年度は道路交通法の改正に伴い、自転車通学生の違反等が多く指導される事態となることが予想される。家庭への周知と本年度末から指導していく。
生徒会活動の充実	各種委員会活動や部活動が活発に活動している。	・全ての各種委員会、部活動等が活動実績を記録する。	・活動実績の少ない組織等に対して、活動の見通しや活動記録を用いて活発化を図る。	B	・委員会活動に差があるが、具体的取組みの見通しを立てる事はできた。 ・部活動は活動実績や部員数での制限を進めていく。	
		学校行事等が安全・安心の上に催され、生徒が積極的に参加している。	・学校評価アンケート「学校行事に積極的に参加し、安心安全に実施できている」との評価が95%以上とする。	・学校行事の目的を生徒に周知し、目的に向かい積極的に活動できるようにする。 ・生徒と事前合意のもと、生徒の主體的取り組みを促し、成長に繋がる学校行事の遂行に努める。	A	・目標の周知と理解、活動での自律を各行事にて実施したことで目標値を超えたと考える。 ・今後も何のための行事や成功には何が必要なのかを共有してあたることを大切にしていきたい。
人権教育の推	安心して過ごすこ	職員が人権意識を高め、連携し	・職員研修（全体）年3回	・学校の実態に即した職員	A	・外部講師を招くなどし、職員研修

進	とのできる学校づくりのための人権教育	生徒理解にあたる。	実施する ・校外の研修に年2回参加する。	研修を提案し、研修を受けやすい体制をつくる。		を計3回実施した。 ・校外研修への参加も各学科・教科の代表が参加することができた。
		生徒が互いに認め合い、尊重し合うことのできる関係づくりについて考え、行動できるスキルを伸ばす。		・年3回の人権LHRをととした学習機会を設ける。 ・生徒人権委員会の取組をもとに学校全体で人権意識を高めめる活動を行う。	B	・生徒の実態に合わせた人権LHRの実施、生徒人権委員による人権標語募集や、文化祭での発表をとおして、全生徒に人権の大切さについて訴えることができた。
いじめの防止等	未然防止への取組	安全・安心且つ学校が楽しいと感じられる学校生活を送れている。	・「いじめを受けた」生徒数を、心のアンケート県平均(1%)以下とする。 ・いじめが疑われる内容も、職員間での情報の共有をすすめる、早期対応・解決につなげる。	・数値に固執せず、積極的認知をすすめる、いじめを受けた生徒に寄り添い改善する。 ・関係職員への情報の共有をはじめ、全職員への周知を行い、全職員で対応する。	B	・アンケートを含め「いじめを受けた」と回答した生徒は目標値を超えている。「ある」と回答している事は現状を知るためにも重要である。 ・いじめを受けた生徒に寄り添い丁寧な対応を実施した。長期になるものもあるが、同様に取り組んでいく。
	早期発見と迅速な対応	いじめの早期発見と迅速な対応ができるよう職員間の連携及び情報共有を行う。	いじめ対応マニュアルに沿って迅速な対応をする。	・いじめが疑われる場合でも、関係職員への情報の共有を行い、対応策の立案と対応を進めていく。 ・状況に応じて、いじめ問題対策委員会を開催と協議の上全職員で対応する。	B	・情報集約担当者への繋ぎと情報共有、対応についての協議と対応が昨年度より円滑に行えるようになった。 ・いじめ事案(疑わしい含めて)に対しての初動や対応の仕方について今後も周知、共有と理解を進めていく。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と本校との連携	地域と連携した学校運営や教育活動を行う。	・学校運営協議会や学校評価アンケートを活用しよりよい学校運営につなげる。 ・地域と連携した魅力ある教育活動を実施する。	・学校運営協議会での意見や学校評価アンケートの集約し、改善を図る。 ・地域の関わりの中で、学校の魅力生徒への教育力を高める。	B	・学校運営協議会において、アンケートや意見を収集し改善を進めた。 ・地域連携も活発に行い、目的を明確にすることで教育力の向上を図った。地域行事への参加や小学校との交流授業を実施した。
		防災・減災教育をとおして生徒自ら考え、行動できるようにする。	・大規模災害や校内での危機管理等において生徒が自主的・協働的な行動ができる。	・防災教育LHRや避難訓練、防災意識を高める授業など啓発に努める。	A	・防災LHRや避難訓練、臨時の全校集会等を開き、生徒の自主的・協働的な行動ができるように啓発した。 ・消防署職員からも避難訓練の際は高い評価を受けた。

	生徒・職員への危機管理意識の啓発	様々な学校における危機管理意識を高める。	・緊急車両対応の明確化、AEDやさすまた等の設置箇所の確認を行い、職員・生徒の自主的な危機管理意識を高める。	・校内の危機管理マニュアルの改善及び周知をする。 ・職員研修を実施する。	B	・校内危機管理マニュアルの改善を行い、職員に対し周知及び確認を行った。 ・AED等の設置箇所の確認等も行った。初動の確認等全職員が対応できるようにする。
特色ある取組	生徒が農業の魅力を探究し、活躍する教育活動の充実	各学科の専門学習に意欲的に取り組むことができるよう、機会を設ける。	・アグリマイスター顕彰制度等による高校3ヶ年の学びを評価する。	・アグリマイスター顕彰制度を通じて、生徒全員が日頃の学習活動で培った知識や技術・技能への自信を深める。	B	・本年度、45名の申請があり、各科の取り組みが全国的な活躍につながり評価を受けた。 ・課題は、科によって申請に差があるため、次年度は改善したい。
			・熊本スーパーハイスクール(KSH)構想リーディング型に取り組む。	・各学科でプロジェクト学習や課題研究を生徒と共に充実したものにする。	B	・本年度は全学科においてKSHの指定をして取り組んだ。
	将来の農業経営者及び関連産業従事者等の持続可能な社会を創造する人材育成活動の充実	熊農ゼミ等を通じた農業経営者等育成活動に取り組み、将来のビジョンを描くことができる。	将来の農業経営や就職に必要な資格取得やインターシップ(農家現場実習)等に取り組む。	・農家現場実習、農業関係企業等の視察研修の実施や、狩猟免許等の農業関連の資格取得を目指す。	B	・熊農就農ゼミは、年間11回の講座を実施し、農業経営者及び関連産業従事者等の育成をした。 ・本年度卒業生の農業自営予定者数(進学後含む)は25名であった。
	探究した農業の魅力の発信と地域貢献活動の推進	農業教育を通じた地域貢献活動と学校HP等によるPR活動に取り組むことができる。	・全学科による開放講座の実施及び交流活動する。  ・学科の魅力ある学習や取組を積極的に学校HPで発信する。	・開放講座等を通し参加者に学びの場を提供するとともに熊農の魅力を伝える。 ・学習活動や農産物の販売など全学科において、定期的にHP更新を行い魅力発信に取り組む。	B  B	・本年度は、小中学生を対象に開放講座を実施した。次年度は生徒募集につながる形の講座を実施したい。 ・各科にHPの更新を依頼したが、学科によってばらつきが生じた。更新の多い学科は、前期選抜の倍率も高く、PRの効果が顕著に表れた。
		・地域企業と連携し地元の町おこしを目的として、商品開発を提案し、HP等とおして情報を発信する。	SDGsを意識した商品開発を地元企業と連携し、地域の祭りや各種イベントで販売し情報を発信する。	B	・農業経済科を中心に、熊本市や地元の川尻商店街と連携し、商品開発や地域行事での販売等を実施した。 ・引き続き、地域活性化への貢献をしたい。	
部活動の充実	部活動を通して、生徒の学校生活の充実と心身の育成を図り、地域から応援される熊農生になる。	・部活動を通して生徒の心身の育成と学校の活性化を図る。	・充実した部活動ができる指導体制を整える。 ・適正な部活動数を検討する。	B	・日々の部活動に生徒達が熱心に取り組む、全国的な活躍にも繋がっている。 ・適正な部活動数にするための具体的な検討ができた。	

#### 4 学校関係者評価

学校関係者評価として、生徒の実習への意欲や地域からの高い評価が共有され、特に挨拶・制服・整容面の改善が確認された。一方で、自転車ヘルメット未着用や一部生徒の暴言、携帯電話や交通マナーの問題など、生活指導上の課題も指摘された。

進路指導については、担任・管理職・進路部が連携し、面接や小論文指導を全職員で支えている点が評価され、また、生徒のコミュニケーション能力の高さについても高く評価されている。

働き方改革では、農業高校特有の土日実習や農場当番、専門部活動による時間外勤務の多さが課題となっているが、平均時間外勤務は45時間から40時間へと改善してきている点は評価できる。今後も職員に負担がかからないように努めていただきたいとの意見があった。

地域連携では、積極的な連携・協力を行い、地域の活性化や生徒の専門性向上など評価された。また、川尻校区の「緑の計画」への協力要請や地元祭りでの和太鼓・食品ブース参加要望があり、今後の協働に期待が寄せられた。

県の高校再編に伴う学級減の問題についても話題となり、農業高校として地域や産業を支える重要な役割を踏まえ、学校のあり方を地域と共に考える必要性が示された。

#### 5 総合評価

本年度は、学力向上・生徒指導・キャリア教育・地域連携といった各領域で計画的に取組を進め、一定の成果が見られた一年であった。重点事項である授業改善については、公開授業や研究授業週間、生徒による授業評価アンケートの実施など、客観的視点を取り入れる工夫が効果を上げており、“主体的・対話的で深い学び”の実現に向けて取り組んだ。また、KSH構想や課題研究、アグリマイスター顕彰制度等、農業高校としての特色ある教育活動が充実し、生徒の専門性や自信の向上につながった点も評価できる。

一方で、働き方改革については時間外勤務の削減や年休取得率の改善が進むなど前進が見られたものの、依然として長時間勤務の課題が残っており、組織的な業務平準化や意識改革をさらに推進する必要がある。

また、生徒指導や適応支援、多様な生徒への対応については組織で対応しているが、繰り返しの指導や個別課題への対応など引き続ききめ細かな支援体制の強化が求められる。整容面では全校集会や職員の声かけ等もあり改善が見られている。学校評価アンケートでは全体的な評価は向上しているものが多いが、少数であっても課題のある生徒や検討事案にもしっかり着目し、支援・指導を継続させていきたい。

地域連携については、防災教育や地域行事・企業との協働など、地域に根差した取組が充実し、学校の信頼と魅力向上に寄与した。今後は、広報活動や学科ごとの情報発信強化により、志願者確保につながる取組を一層推進したい。

校長からは、整容改善や生徒の成長への手応えを述べつつ、地域連携の強化と学校の将来像について積極的に意見を求めているとの総括があった。

#### 6 次年度への課題・改善方策

本校の課題として、「多様な生徒への支援・指導及び安全な学校づくり」、「業務改善及び働き方改革の推進」、「授業の充実」があげられる。これらについては一昨年、昨年よりアンケートでは改善されているが、今後更に進めていく必要がある。そのためには組織力の向上、そして個人の経験値及びスキルアップの向上が必要だと感じている。

今年度は、特に主任主事へのアプローチを行い、組織としての対応を心がけてきた。今後も教職員が様々な課題を自分事と捉え、自ら考え、対応する姿勢を醸成させていきたい。

「業務改善」においては昨年度の提案を実施できたことは改善に繋がった。引き続きメリハリのある勤務を心がけると同時に先生方のスキルアップを図りながら風通しの良い職場づくりを推進していきたい。また、職員に加え、PTAや同窓会、地域等と連携を図り、授業の充実や学校の活性化に繋がるよう努めていきたい。